

10月15日 大町市立仁科台中学校 大町市立大町南小学校  
「中信地区 学校図書館教育研究大会」を終えて  
大北支部代表 大町市立大町北小学校 宮入 勝彦

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、リモート（Zoom）により開催。

- 1 研究テーマ 「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育はどうあったらよいか」
- 2 実践授業 ※当日の午前中に指導者を招聘して、校内体制で実践授業を行い、研究大会の中でその様子について、両校より発表。

実践発表校	授業者	授業学年・教科名・単元名	指導者
大町南小学校	清沢 梓 教諭	小学校2年・生活科 「電車遠足に行こう」	中信教育事務所 指導主事 白井 敬 先生
仁科台中学校	藤森 祐介 教諭	中学校2年・国語科 「仁中の図書館に入れるのに相応しい本とは？」	長野県総合教育センター 専門主事 鎌倉 大和 先生

- 3 講演  
演題：「1台の機関車として」  
講師：文平 玲子さん（市立須坂図書館 館長）  
※須坂市出身。ポプラ社で編集部勤務。「きかんしゃトーマス」を担当し、のちに翻訳も手がける。2014年4月、公募により現職となる。

4 参加人数 40名

5 まとめ

当初は、両校に公開授業をしていただき、授業研究会を行うように計画しておりましたが、2学期始め、県下の新型コロナウイルス感染者数が増加し、その後の見通しも立たないという状況であったため、今年度の中信地区図書館教育研究大会は、リモート（Zoom）による開催とさせていただきました。

発表していただいた両校の実践は、図書館との連携が授業の中でどのように活かされているか、各校にとって、とても参考になる取組でした。

大町南小学校の「いわさきちひろ美術館見学」を題材とした授業では、様々な角度から切り込んだ学習を展開する中で、「子どもたちの『なぜ?』」に答える図書館運営」が、その活動を支えていました。

仁科台中学校の自分が書いたレポートによって、実際に図書館に入れる本を購入してもらえるとという活動は、生徒の意欲を高めるとともに、自己有用感の向上につながっていくという、工夫された展開でした。

文平館長さんのご講演は、「人生という線路を走ってきた機関車『文平号』のお話」で、70分間があつという間に過ぎ去りました。「先生方がトップハム・ハット卿になってください」という言葉が印象的でした。

SNSの普及やGIGAスクール構想の導入などで、私たちの日常には情報があふれています。このような状況の中で、学校図書館教育の意義が問われていると感じていますが、今後の学校図書館教育の方向性が示唆された機会になったと思いました。



大町南小学校の授業風景



仁科台中学校の授業風景